

事業完了報告書（豊中市教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月26日 ～ 令和6年3月15日
調査研究事項	<p>≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫</p> <p>IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>研究テーマ</p> <p>① 学齢期に十分に学ぶことができなかったために自己肯定感が高まりにくい生徒の自尊感情を高める支援の在り方</p> <p>② 日本語理解に課題のある外国籍の生徒の自己実現に向けた支援の在り方</p>
調査研究のねらい	<p>① 戦後の混乱期に主に経済的理由などで義務教育を十分に受けることができなかった生徒も、家庭の経済状況や疾病、発達の課題等に起因して不登校になり、小・中学校を形式卒業した生徒も、本来学齢期に受けるべき教育を受けることができなかった生徒は、その後の社会生活において、様々な差別的扱いを受けたり、人間関係において侮蔑的な態度を取られたりすることを経験する場合もある中で、概して、自己肯定感が高まりにくい傾向がある。このような生徒にとっては、夜間中学で義務教育を受けることを通じて他者と交流する中で、知見を広めながら自己表現をすることが、自己評価を否定的なものから肯定的なものへ変換する契機となる。</p> <p>また、校外に発表の場を広げることで、発表が校内で完結してしまう場合と比べて、自己開示ができたという達成感や肯定的評価を受けた際の達成感を一層大きくすることができる考える。</p> <p>このようなことから、近畿夜間中学校の連合で行う諸行事や学習旅行を通して、他者との交流や普段と異なる環境の中で、自己表現を行ったり知見を広めたりすることによって自尊感情を高めるための、支援の在り方を探りたい。また、その成果の積極的な発信を行う。それぞれの行事については以下のねらいをもって取り組み、調査研究を進める。</p> <p>【新入生歓迎集会・連合運動会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何百人という大きな集団の前でも、同じ立場の学友が集っているという安心感により、自己表現・身体表現をしたりすることが期待できる。 <p>【連合作品展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校の作品の中に、自分たちのものと似た表現作品、自分たちがやったことないような表現作品を見つけることで、自分たちの表現への自信、新たな表現への意欲を持つことが期待できる。 <p>【学習旅行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習旅行のテーマを設定し、同じ学級の学友とテーマにそった学習を校外で進めることで、学友との交流を深めるとともに実際の

	<p>体験による学習の深まりをめざす。また、学友と日本文化に触れることを通じて、日本の文化に対する知見を広める。</p> <p>全ての行事の事後</p> <p>生徒が感想文を書く機会等を積極的に設け、文集という形で再び他者に対して表現する。体験を文章にまとめることは、生徒が自身の変化を自覚できる契機になるとともに、文章から生徒の変化を客観的に把握し、その後の支援につなげることができる。</p> <p>② 新渡日の生徒は概して、日本語の理解が初歩的なうちに母国での生活から切り離され、物質的にも精神的にも不安定な生活を送りながら学んでいる。このような日本語理解に課題のある外国籍の生徒に対しては、教員は、生徒との確実な意思の疎通及び丁寧な生徒理解を図り、安定した学校生活や卒業後までの進路選択を見通した支援を図らねばならない。</p> <p>入学前の入学希望面談、入学直後のオリエンテーション、健康診断、学期末懇談、就学援助受給申請支援、進路懇談等において、各種文書を翻訳したものを活用したり、通訳者同席の上で実施したりすることなどにより、そのような支援の在り方を探りたい。</p> <p>実施後には、アンケート等を実施し、効果検証を行い、その後の支援の体制にフィードバックさせることを研究する。</p>
調査研究の成果	<p>IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>① 学齢期に十分に学ぶことができなかったために自己肯定感が高まりにくい生徒の自尊感情を高める支援の在り方</p> <p>○ 近畿夜間中学校連絡協議会と生徒会連合会共催である、新入生歓迎集会、連合運動会、連合作品展の三つの行事に参加し、他の夜間中学の生徒と交流をする中で、以下のような生徒の変容がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の夜間中学の生徒と交流をすることで、同じ目標に向かい一生懸命取り組む多くの仲間存在を知ることができた。 ・共に学び学習意欲を高めたり、作品制作の過程では励まし合ったりする経験を通じて、学び続ける自信を身に付けることができた。 ・作品発表や競技、表現活動等の発表の場を通じて、自己表現をする喜びを感じるとともに、達成感、自己肯定感を高めることにもつながった。 <p>○ 学習旅行として、尼崎市での城めぐりを行った。在校生と新入生が自由に交流しながら体験活動を行い、日本の文化に対する知見を広めたり、学齢期に果たせなかった学習旅行の体験による自己肯定感の育成につながったりした。</p> <p>○ 連合運動会や学習旅行での体験等を自己表現する場として、総合学習発表会、校内作品展、市内6か所（公民館1・図書館4・国際交流</p>

センター1)での校外作品展を実施した。生徒たちは体験したことをもとに自己表現することができたので、自信をもって表現活動に取り組んでいる様子が見られた。また、学習発表会や郊外作品展の参加者が書いた感想文を生徒にフィードバックした。参加者からは肯定的な感動が書かれており、生徒が他者からの肯定的な評価に触れることができ、自尊感情や自己肯定感の高まりにつながったと考えられる。

- 連合運動会や学習旅行の事後、生徒が感想文を書く活動を設けた。「みなさんとがくしゅういったのしかった」「〇〇さんが参加していたので嬉しかった」等、級友が楽しむことで自らも楽しくなれたことが分かる感想が多く見られた。また「I hope we can go to many other educational tour as we learned a lot of Japanese culture」等の日本文化に対する知見の広がりが見られた感想もあった。さらに、「最後の最後まで片づけをして帰ります」等の自発的な社会奉仕につながったことが分かる感想もあった。これらは、自尊感情を高めたことにより、級友と楽しむことをよしとする態度、普段の何気ないことに気づくことができる感受性等が育成されたものであると考える。

②日本語理解に課題のある外国籍の生徒の自己実現に向けた支援の在り方

- 年度初めの各種オリエンテーション、就学援助受給申請支援、進路懇談等において、各種文書を翻訳したものを活用することにより、日本語理解に課題のある生徒への正確な伝達に努めた。これらの場面で使用する書類は内容が難しいものが多く、特に、日本語の理解が初歩的な生徒にとって、書類の内容を理解することは困難を極める。母国語に翻訳された書類により説明を受けることで、生徒の安心感につながっている。
- 入学希望者面談、検診、学期末懇談、進路に係る懇談時には通訳者同席の上で実施することによって、外国籍の生徒に対して確実な意思の疎通と丁寧な生徒理解を図り、安定した学校生活やきめ細やかな支援、そして卒業後の進路選択についても、今後の学校生活や日本での生活を見通した支援を行うことができた。
- 通訳者派遣の実施後のアンケートでは、通訳者派遣が助けになったかという問いに対する肯定的回答が8割を超え、通訳者派遣が非常に有効であることを示している。通訳者派遣があまり助けにならなかったと回答していた生徒については、使用言語に多種の方言が存在し、通訳者の方言とマッチングしていないことが原因と分析している。より幅広い言語に対応できるよう通訳者を確保し、適切に派遣していける体制を作ることが課題である。